



## Surrogacy in Russia and Ukraine.

### ロシアとウクライナの代理出産

Interviewee

Anonymous Informant

#### Q. 研究者としてのバックグラウンド、専門分野、研究領域について教えてください。

社会人類学とジェンダー研究が専門領域。ベルン大学で博士号を取得するためにロシアとウクライナで代理出産に関する研究を行い、両国における道徳と不平等の問題に焦点を当てた。

研究では、生殖医療と生殖補助医療における道徳、不平等、倫理が交わる課題にフォーカスしている。現在は、オーストリアの出生前診断の結果による妊娠中絶を、医療スタッフの視点に焦点を当てて研究している。妊娠中絶がどのように選択されているか、それがその人の人生の文脈で保持している概念は、私たちに何を指し示しているかを考察している。

#### Q. フィールドワークについて教えてください。難しい面はありましたか？ どのように対処しましたか？

2014-15年にモスクワでのフィールドワークの大部分を実施した。当初、国境を越えた代理出産（モスクワに来る外国人の依頼者）に興味を持っていたが、ウクライナはそれより人気のある渡航先であることがわかった。ウクライナには4回渡航したが、調査の大半はモスクワに集中していた。研究はロシア語で行った。

フィールドワークでは、多くの困難に出会った。まず、クリニックにアクセスするのが難しかった。クリニックに研究に協力する意欲はほとんどなかった。特に私立のクリニックは、科学研究に貢献するという価値を理解していない。

さらに、代理出産はロシアで非常にスティグマがある。IVFでさえほとんど話されることはない。その結果、ロシアでインタビュー対象者を見つけるのは非常に困難だった。

ロシア社会は非常に懐疑的な空気があり、ロシア人は知らない人に対しては距離を置く傾向がある。自分がインタビューをした対象者は、自分がロシア語で出版しないことを信用してくれたが、「ここで何をしているのか、なぜ外国人としてここで研究しているのか」という疑問はしつこく残った。

クリニックでは、大抵、医師たちは忙しく、時間がない。医師に電話をかけてもなかなかつながらず、メールを出しても返信をもらうのはかなり難しかった。医師は、多くの場合、組織における「ゲートキーパー」であり、研究対象者にアクセスするためには彼らの承認が必要だった。

研究の参加者を見つけるために、エージェントやクリニック、そしてオンラインのコミュニティを調べた。オンラインの広告ページを下までスクロールして、連絡するのは時間がかかった。当たりの確率は低かった。信頼性と守秘義務の問題があったから。

ウクライナとスペインでは、研究参加者を探すのはもっと簡単だった。スペインでは、そのトピックについて話したり、インタビューを受けたりすることに対して人々はあるかにオープンだから。スティグマは少ない。

#### Q. フィールドで、印象的だった人物、出来事、エピソード、場面など、何でも教えてください。

2人の女性が特に記憶に残っている。モスクワで2人の代理母を妊娠期間中ずっと観



察することができた。どちらの女性も 30 歳くらいで、クリニックが提供するアパートに住んでいた。一般的に、代理母は頻繁に移動しており、クリニックが提供する施設には住んでいないことが多い。しかし、二人の代理母はずっと 1 つの場所に滞在していた。

2 人の女性は同じ建物に住んでいたが、友人関係ではなかった。性格や経験がまったく異なっていた。1 人の代理母は、娘と(くっついたり離れたりの関係の)彼氏と一緒にアパートに住んでいた。妊娠中、彼女は辛く、孤独を感じていた。彼女は、クリニックからモノのように扱われていると感じ、しばしば落ち込んでいた。もう一人の代理母はパートナーと一緒にアパートに住んでいて、いつも気分が安定していた。彼女は妊娠を心地よいものと感じてはいなかったが、もがいてはいなかった。彼女はもっとのんびりとした態度をとっていた。

数年後、ウクライナでの代理出産を検討しているドイツ人のカップルに会った。依頼者は、妊娠中、彼女とずっと一緒にいることを許容した。ウクライナに来た時は一緒に過ごし、子供たちを迎えにきた時も一緒にいた。依頼者が双子を迎えに行くために初めてウクライナに着いたとき、物事は実際にはかなり悪い状態になっていたが、エージェントは特定の情報を差し控えていた。このように依頼者と代理母の双方を観察できることは、非常に興味深かった。依頼者が知っていたこと、クリニックが知っていたこと、抑圧された情報。この時妊娠していた代理母は現在ハリコフにいて、ロシア・ウクライナ戦争のために奮闘している。

#### Q. ロシアとウクライナの代理母において、感情の問題(maternal instinct)はどのように扱われていましたか。

それは全く問題ではなかった。実際に代理母になる前に、子供をあきらめることができ

るかどうかなど、潜在的な愛着の問題について検討したと述べた代理母もいたが、彼女たちが示してくれた物語は、それについてよく考え、自分にはそれができるとわかったことについてだった。その理由は、子供は自分のものではないからというもの。彼女たちは、それが自分たちの子供ではないという考えで「一致」していた。

ロシアでは、遺伝的親子関係が非常に重要であると考えられている。遺伝的關係は、代理母を含めて、すべての関係者によって非常に強調されている。むしろ代理母が逆の懸念を表明することもあった。「自分の子供じゃないから愛着も持てない、そんな子供を出産することなんてできるの?」と。

依頼者と関わりたいという代理母の欲求(またはその欠如)は、時間とともに変化することがある。ロシアでは、代理出産は仕事でありビジネス関係であると見なされている。当初、一部の代理母は、依頼者と会うことにためらいを示し、仕事上の関係を強調しすぎていた。彼女たちは、依頼者との関わりが取引を複雑にするのではないかと心配していた。これは、代理母の匿名化を推し進めるエージェントによって広められる言説であり、それにより、エージェントにとって取引が容易になり、すべての情報を管理できるようになる。

反対に、依頼者にとって、代理母は「危険」であり、代理母と接触を持っている場合、代理母からより多くを求められるというクリニックの側に立った言説がある。しかし、代理母たちは後に考えを変えることが多い。彼女たちは次第に子供に対する責任感を形成し、良い家族になってもらいたいと願う。彼女らはまた、エージェントから尊敬をもって扱われていないことが多く、依頼者から間違いなくもらえるはずの感謝と謝辞を待ち望んでいる。

代理母志願の女性たちの中には、最初から、依頼者とコンタクトできる場合にだけ、



代理母になると明確に述べている人もいる。エージェントを避けるために私的な取り決めを設定しようとする人さえいる。

**Q. ロシアはかなり国土が広いですが、代理出産に関連して、地域差はあるでしょうか？**

これはわからない。自分の研究はモスクワに焦点を合わせていたので。

モスクワ以外には、サンクトペテルブルクにも多くのクリニックがあり、もう一つのハブとして機能していて、他の都市にもいくつかある。

**Q. 代理出産の依頼者が外国人の場合と、母国人同士の場合とでは、どのように異なりますか？**

これは、エージェントを経由するか個人的に行うか、また、どのエージェントを経由するかによって異なる。ロシアの依頼者はより干渉する傾向がある。そして、同じ言葉を話し、国のことも知っているので、外国人依頼者よりも不安が少ない。外国人依頼者は、自分たちがクリニックの言いなりになっていて、批判したり要求したりすることはできないと感じている。これは、彼らが脆弱であり、ロシアの依頼者よりもエージェントに依存していることを意味する。

外国人依頼者は、出産日の計画にも苦労している。帝王切開はロシアとウクライナでは珍しいため、出産に立ち会うことができる渡航日を選択するのに苦労している。

階級の違いもある。ロシアの代理出産は、ロシアの基準では非常に高額だ。したがって、ロシア人の依頼者はアッパークラスだが、外国人依頼者は必ずしも富裕ではない。これはウクライナではもっとはっきりしている。

**Q. ロシアやウクライナで母性規範は強いですか？ 妊娠出産をビジネスにすることへの抵抗感は強いですか？ 売春よりはスティグマは少ないですか？**

答えるのが難しい。売春よりもスティグマが少ないと思うが、批判をする人たちの見方からすれば、両方とも同じこと。代理出産に関する言説は、女性の身体の商品化と搾取に焦点が当てられている西ヨーロッパや中央ヨーロッパと比較すると、ロシアではかなり異なる。ロシアでは、生殖補助医療と不妊に関連するスティグマに焦点が当てられている。

西洋では、代理母はしばしば犠牲者と見なされているが、ロシアの文脈では、彼女たちは道徳的に不適切なエージェントと見なされている。批判をする人たちは、不妊の女性は「道徳的に正しい」生活を送っていないと主張する（だから不妊症になるのだと）。そして、代理出産のことを自分の体と自分の子供を売ることと同等だと見なしている。

**Q. ロシアとウクライナで、宗教はどのような影響を持っていますか？**

ロシア正教会は、近年、ロシアの政治に浸透している。2012年以降、宗教と政治の間に強い同盟関係がある。これは、正教会が代理出産の言説にますます関与するようになったことを意味する。極めて保守的な政治家によって代理出産を禁止するための動きが何度かあった。「伝統的な家族」は、彼らが激しく擁護する中心的な概念だ。

過去12年間で、教会と国家の同盟は、家族生活と家族形成の問題にますます侵入してきている。人々は、この変化はプーチンによって強力に永続化されていると言っている。

**Q. ロシアとウクライナの政府は代理出産の商業化や、外国人依頼者に対して、どのよう**



## な態度でしたか？ 最近の法整備に関して、何か情報がありますか？

ロシアで保守的な態度が進み、それが代理出産の商品化に影響を及ぼしている。代理出産で生まれた新生児が、モスクワのアパートで亡くなったという事件があった。この事件は、代理出産の商品化と、依頼者の多くが外国人であること、そして彼らが潜在的に同性愛者ではないかということについて大きな議論を引き起こした。その結果、同性愛の人々を口頭での報告だけで有罪化する方向にシフトしている。外国人依頼者の代理出産を禁止するために複数の法案が提出された。

批判は商行為そのものに対してではなく、誰がそれにアクセスできるかということに向けられた。ロシアで代理出産から生まれた子はロシア人であり、したがって国によって保護されるべきであると考えられている。これに関連して、これらの子供たちがゲイポルノなどに売られている危険性に関して、政治家によっていくつかのとんでもない声明が出された。

ロシアから米国に養子縁組された子供が亡くなったことをきっかけに、2012-13年に法律が施行された。ロシアはこの事件を利用して、米国では子供たちが安全ではないと述べ、米国への養子縁組を禁止した。また、同性婚を合法化した国への養子縁組も禁止した。これはすべて、「ロシアの赤ちゃんを保護する」というナショナリストのレトリックを使用しており、より厳格な方法でロシアの人口を管理しようとする生政治的 (biopolitical) な変化に関係している。

## Q. ロシアとウクライナを比較して、何か違いはありますか？

代理出産に関する言説を比較するためにメディアの議論等を詳しく調べてこなかった。

これまでに述べたような、ロシアで観察したことはロシアに固有のものであると思う。

ウクライナでは、COVID の封鎖に続いて、あるクリニックが YouTube 動画を投稿した。この動画は、代理母たちが搾取されているという懸念から拡散された。ウクライナでは戦争が勃発する前に、外国人依頼者の代理出産を禁止するという議論があった。

一般的に、代理出産はロシアとウクライナで非常に似ているように見えるが、確信があるわけではない。2つの業界は完全につながっている。多くのウクライナ人女性は、卵子を売ったり代理出産したりするためにロシアに行く。これは、国境を越えた代理出産が、この地域において、どれほど広がっているかを示している。

## Q. ロシアとウクライナで代理母はどのようにリクルートされていましたか？

ソーシャルメディアではいろんなことが起こっている。フェイスブックのように機能するロシア固有のプラットフォームがあり、代理母を宣伝するグループがたくさんある。雑誌にも広告が出ることがある。以前は、代理出産の広告を行う大きなロシア語フォーラムが3つあったが、偶然にこれらのフォーラムにたどり着くことはできない（見つけるためには意図的に探す必要がある）。

自分が話した女性のほとんどは、過去に代理出産について聞いたことがあると述べたが、それを探すことに決めたのは、経済的に不安定な立場になってからのこと。あるいは、ソーシャルメディア上の広告を見て興味を惹かれた人もいる。

ロシアの代理出産は、インドと異なる。インドでは、ブローカーがいて近隣の人たちをリクルートしている。ロシアでは、代理人は個人としてより孤立している。

ロシアの法律では、代理母になるためには、少なくとも1人の子供を産んでいること



が必要。彼女たちは人生の早い段階で子供を産む傾向があり、代理母になったとき、ほとんどは20代半ばから後半だった。女性の教育レベルは様々だったが、ほとんどがサービス部門でスキルの低い仕事で働いており、教育上の専門知識が必要な分野ではなかった。モスクワ出身の人もいれば、小都市（必ずしも地方ではない）から来た人もいれば、ウクライナ、中央アジア、ベラルーシなどの海外から来た人もいた。多くの女性たちがモスクワに来ていた。モスクワは報酬が高いし、妊娠中は、自分の家から離れた場所にいることができるから。

**Q. 代理母のための自助グループがウクライナにはあると聞きました。どのような活動をしていましたか？ ロシアについてはそのようなグループはありましたか？**

こうしたことは、ロシアではあまり見られない。自分が出会った代理母は、妊娠中に完全に孤立していた。それについて話し合うことができる友人が1人か2人いると思うが、彼女たちは妊娠を親戚や友人に秘密にしていた。多くの人が共同アパートに滞在しないことを選んだので、代理母同士の意見交換はほとんどなかった。

ロシア社会では、人を信用しないという問題がある。クリニックは、「誰が誰に何を言うかわからない」などの理由で、代理母に対して妊娠について黙っているように言う。懐疑論だらけだ。

**Q. 代理出産は世界中で行われています。他の国と比べてとき、ロシア、ウクライナの代理母の経験に何か特徴は見られますか？**

懐疑論や用心深さは、ロシアでは普通のこと。ロシアの代理母は、誰が誰に何を言うかについて非常に注意を払っている。

**Q. コロナや戦争などで、代理出産ビジネスは相当なダメージを受けていると思います。今後、どのような見通しでしょうか？**

ウクライナで、戦争は大きな影響を及ぼした。多くの代理母が国を去ったが、規制されていない国で出産した場合、代理母自身が子供の法的な母親になる危険に直面している。これは、関係者全員に多大な不安を引き起こしている。

Biotex.com は、キーウ郊外のシェルターからビデオを投稿し、多くの議論を巻き起こした。紛争中にもかかわらず、彼らは代理母に出産のためにキエフに戻るように言っていた。安全性と法的観点の両方から、代理母が出産できる/出産すべき場所をアドバイスする医療記事がたくさん出ている。ある記事は、ジョージアで出産することを提案していた。代理出産はジョージアで合法であり、戦争地帯ではないので、一部の人にとっては魅力的な選択肢かもしれない。現在ポーランドに住んでいる、または依頼者と一緒に住んでいる代理母の中には、法的な問題がないことを確認して、出産するためにジョージアに渡航することを計画しているようだ。この場合、ロジスティクスに関して未解決の問題がたくさんある。

戦争をめぐる議論は、(妊娠出産という)具体的な労働（つまり、単に「辞める」ことも去ることもできない仕事）に際して、契約上、誰が最終的な発言権を得るかに関する多くの問題を、我々に提示している。

(2022年6月)